



# 学びのみちしるべ

第6回

大学での学びの中身と、その学問が社会でどう役立つのかを大学の先生が解説。進路選択のみちしるべとなるよう、高校での学びがその学問にどうつながるのかもお聞きしました。



## 観光学

【お聞きした先生】>> 立教大学 観光学部 東 徹教授

Q この学問の内容、面白さは？

**A** 今だけここだけあなただけの価値を提供するのが観光  
それをビジネス、地域振興など多角的視点で追求する

観光学は、現代社会において観光が果たす役割、観光が社会や経済、文化などに与える影響等について研究する学問です。観光を「異文化交流」という視点でとらえたり、「地域活性化」に活かす取り組みについて学んだり、お客様を満足させる「もてなし」のあり方を考えることであったりと、様々な問題意識や視点から観光を研究することができます。

私の専門領域はマーケティングです。マーケティングとは、いわば「売れる仕組み、買ってもらえる仕掛け」をつくること。お客様に満足してもらえる価値を創り出し、提供していくことでビジネスが成り立つという考え方です。

観光とはその時、その場にいるからこそ味わえる楽しみ、感動を享受するという。したがって、観光ビジネスや地域振興においては「今だけ、ここだけ、あなただけの価値を提供する」ことが大切だと私は考えます。例えば、ある町を観光地にするなら、その地域の恵みや持ち味をどのように商品化し、魅力をどう伝え、どのように楽しんでもらうかという仕組みをつくり、観光客の満足と地域振興につなげる必要がある。そのためにマーケティングの知識やスキルを学び、役立てていくわけです。

私のゼミでは、マーケティングの基礎を学び、それを観光ビジネスや地域振興等、様々な領域に応用していく研究を行っています。教室での学びだけでなく、実践的な学びも重視。その一例が埼玉県吉見町にある「道の駅いちごの里よしみ」との連携です。学生たちは吉見の地域資源調査や道の駅の利用者調査を行い、地域の課題について地元の人たちと議論を重ねてきました。まさに地域振興に実践的に取り組み、その土地に住む人々にとって魅力ある道の駅にしたいという思いを形にしようとしています。吉見の恵みや持ち味を季節ごとに表す「歳(彩・菜・祭)時記カレンダー」の作成、地元の味や特産品を活かした「あぶら味噌焼うどん」の開発や「いちご染め」体験、道の駅夏祭りの開催など、その成果は少しずつ実現されています。



埼玉県吉見町で毎年8月に実施の夏祭りの様子

Q 社会でどのように役立つ？

**A** 実践の場で学んだ4年間は必ず社会で役立つ  
問題解決能力を活かし、さまざまな業種へ就職

観光学部では経済学や経営学、社会学、地理学、人類学、心理学、さらには都市計画や建築などさまざまな分野を学びます。そうした幅広い学問をベースに地域や企業との連携やフィールドワークといった実践学習を行います。その中で現象を多角的に捉え分析する眼が養われていきます。ある課題にどう向き合い、解決していくかといった問題解決能力も鍛えられます。これらは観光関連産業だけでなく、どんな道に進んでも必ず役立つ基本的な力になります。

観光学部は、何らかの目的意識をもって入学してくる学生が多い印象があります。最初は「世界のことを知りたい」「地域を元気にしたい」「人を楽しませる仕事がしたい」といった漠然とした思いが、学びを進めていくうちに「人が旅行に行く動機について研究したい」「インバウンド(訪日観光)の質を高め、日本のファンを創り出すにはどうすればよいか考えてみたい」などといった具体的な問題意識を抱いたり、特定の企業や地域を取り上げて研究を行うなど、学生ごとにやりたいことがより鮮明に、具体的になっていくように思います。若者が旅行離れていると言われて久しいですが、観光学部の学生は違います。比較的好奇心旺盛でフットワークも軽い。自分ではそんなタイプではないと思っていた学生も、観光学部で学ぶうちに刺激され、アクティブになることも多いように思います。なかには、地方にインターンシップに行ったことがきっかけとなり、地域づくりに目覚め、その土地での就職を決める学生もいます。

Q 高校の科目とのつながりは？

**A** 知識によって観光で得る感動は違う  
地歴や美術など教養を身に付けることも大切

受験勉強で大変だとは思いますが、「教養」を身につけるという意味での勉強も大切にしたいものです。地理や歴史、美術などの知識があるとないとでは観光の楽しみ方が違ってきます。神社仏閣、城や教会、遺跡、あるいは美術館を訪ねたとします。「大きい」「きれい」といった直感的な印象だけでももちろん感動できるのですが、それができた時代背景や、誰が何の目的で作ったのか、長い時間の中でそれがどんな数奇な運命をたどったのかなどといったエピソードを知っていることで、さらに違った感動を味わうことができるのではないのでしょうか。



## 知能情報学

【お聞きした先生】>> 東北大学 大学院情報科学研究科 乾 健太郎教授

Q この学問の内容、面白さは？

**A** 人間の知的な情報処理能力を解明し、  
高次情報処理システムの構築を目指す学際的な学問

「連休、どこか遊びに行ったの？」と友達に尋ねて、「風邪で寝込んでしまって」と言われたら、その瞬間に「行けなかったんだ」と理解します。また、「東京まで行きたいのですが」と聞かれたら「教えて」と言われていることがわかる。こんな風に、フレーズにはない「行間」の言葉を巧みに補いながら、私たちは情報や気持ちを伝え合っています。私たちは無意識に日々、こうしたやりとりをしているわけですが、実はこれは人間だけがもつ知的で高度な情報処理能力。こうした人間ならではの高度な情報処理について学び、それらを構築し発展させていく研究分野が、知能情報学です。

人間の情報処理能力の高さを把握するには、人間そのものをより深く解明する必要があります。そのため、生命、脳・神経、行動など生体としての人間の研究(サイエンス)も学びながら、それと同時に高度な情報処理能力をもつコンピュータを今以上に進化させるための研究(テクノロジー)を展開していく。まさに、サイエンスとテクノロジーの両輪で、高次情報処理分野を切り拓く学問です。代表的なのが人工知能(AI)。複雑な情報処理を行うAIはここにきて一気に進化し、ディープラーニングという人間の脳が学習するやり方を真似た手法も登場しています。最近話題になった将棋や囲碁の世界でプロの名人に勝ったAIにもこのディープラーニングは応用されています。

私が今、一番力を入れているのが自然言語処理。「自然言語」とは私たちが日々使っている言葉のことで「プログラミング言語」と区別するため、こう呼びます。このふだん使っている言葉がわかるコンピュータを作るためのAI研究を進めています。曖昧な言葉や表現でも人間は文脈から推測したり、真意を理解できます。人間には経験とそれによって得た常識があるからです。ところが、今のコンピュータは自ら何かを経験することができず、常識もありません。だから、曖昧な言葉を自分の常識と結びつけて理解するといったことがまだできていない状況です。それを何とか実現すべく、膨大な情報の宝庫・SNSを活用し、世界中の人々の経験や常識をコンピュータに与える研究を進めているところです。

Q 社会でどのように役立つ？

**A** どの業界からも引く手あまたの  
知能情報学の知識と技術

知能情報学の研究はどの産業でも役立ちます。自動翻訳はすでに使われています。そのほか、病気の診断、新薬の開発、自動車の運転などさまざまな分野へも広がりを見せています。

私の研究室でも産学・学際連携のプロジェクトをいくつか進めています。コールセンター業務を支援するチャットボットの開発、地震などの災害時に、被災地の情報を集めて整理する災害対応支援システムや、記述式の解答をAIが採点するシステムの開発などです。

卒業生たちはIT関連のほか、メーカー、教育、マスコミなど実にさまざまな産業で活躍しています。いずれの産業もIT化や知能情報化を進めることでチャンスが広がるので、知識のある人材が求められています。それだけ需要の高い学問です。

Q 高校の科目とのつながりは？

**A** 文系と理系が完璧に融合した領域。  
数学を道具として扱えるようになっていれば最強

私は高校時代から人と話すのが好きで、情報学系に進学したものの、就職は人と関わる文系就職を考えていました。その気持ちが変わったのが大学3年の冬に受けた人工知能の講義。そこで、コンピュータに言語を教える研究を知ったのです。非常に魅力を感じ、この分野へ進みました。実際にやってみたら本当に面白く、その魅力にとりつかれてそのまま研究者になってしまいました。

曖昧で、とらえどころがない言葉の世界を、数学を道具にしてひもとくのが私の研究分野「自然言語処理」です。言葉は数学で割り切れないものですが、突き詰めていくと割り切れるものもあるんです。コンピュータに人間と同じことをさせると何ができて何ができないかがはっきり見えてきます。まさに文系と理系が融合した分野で、その学際的な部分に非常に面白みを感じています。この分野を目指すなら、言葉に興味があることも大切ですが、数学が重要です。高校で学ぶ線形代数など使わない日はないくらいです。数学の応用の仕方をわかりやすく体験させてくれるのが物理。こちらも勉強しておく役立ちます。ふだんから社会にも関心をもつ心も大切。知能情報学で取り組む課題はすべて実社会とからんでいます。



オススメ BOOK

「イラストで学ぶ 人工知能概論」(谷口忠大著)。自然言語処理だけでなく、人工知能(AI)全般のことがわかりやすく書かれています。